

天竺(てんじく)とは、インドのことをさす古い言葉です。唐天竺(からてんじく)と言いますが、唐は中国、天竺はインドを指し、遠い遠い国のことを言います。三蔵法師が孫悟空と目ざした国です。

「天竺」の語源は不明のようですが、「インド」の語源はインダス河からきています。インダス河はサンスクリット語 Sindhu (シンドウ)と言い、それがペルシャ語でSがHに変化してヒンドウとなり、さらにギリシャ語でHがとれてインドウ、インドスになたと言われます。長い歴史を感じる言葉の変化です。

<主管所感>

道しるべのない山

友松浩志

正月休みに、久しぶりに湘南の小さな山に登った。

住宅地のうらの、ヤブのような所から登りはじめて、シノ竹のなかに見え隠れしている細い道を探しながら、何とか登っていった。ともかくヤブばかり、住宅地の家々が下の方に小さくなくても、視界は一向に開けない。

しばらく登ると、T字の分かれ道にでた。右も左も下りで、何の表示もない。小さい山だから、地図も磁石も持ってきていない。いざとなれば、下の住宅地にかけ下ればいいと左に進むと道はどんどん下る一方、これじゃ頂上に行かれない。気を取り直して右に行くと、しだいに道は登りになって、いくつかの起伏を繰り返しやっと頂上に達した。

頂上といっても、三角点の礎石と小さな手書きの山名表示があるだけ。眺望はまったくないヤブの中。久しぶりの山は征服できたが、大きな教訓があった。それは「道しるべのない山」もあるということ。

たいがいの山には、道しるべがつけられている。登山口には「〇〇山登山口」、分かれ道には矢印、山頂には「〇〇山」と立派な表示がある。それが、あたり前と思っていると今回のようなことになる。この道でいいのだろうか、と登り始めて、方角も分からず突き進み、登った所もハッキリしない。小さい無名の山ほど、そんなものなのだ。

これは、何か人生に似ている。人生の入り口に、「〇〇さん入口」なんて書いてある訳ではないし、いろんな分かれ道に、矢印がついている訳でもない。一生懸命登り続けて、やっとたどり着いた所も、頂上かどうかよく分からない。

人はみな、「道しるべ」のない山に登っているようなもの



おろかなるもの おのれ愚かなりと思うは
彼これによりて またかしこきなり
おろかなるに おのれかしこしと思うは
彼こそ まこと おろかといわるべし

(法句経 63)

◇ 新・法句経講義 71 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載法句経について解説しています。>

自分の「おろかさ」に気づかない人って、案外たくさんいるものです。知ったかぶりで、自分の意見をしゃべりまくる、そんな人を、よくテレビのショー番組で見かけます。

とはいえ、人の「おろかさ」は見えても、自分の「おろかさ」には、なかなか気づかないものです。ギリシャのソクラテスが「無知の知」(自分が何も知らないことを知っているという自覚)を尊重したように、お釈迦さまも「おろかさ」の「自覚」を求めておられます。

「人」は、どこまでいっても「人」です。どこかの優秀な学校を卒業しようが、どんな大会社の社長さんだろうが、「人」は「人」の限界を越えることはできません。それ故に、「人」としての愚かさも、またずっと持ちつづけていきます。その自覚があるかないか、それがその人を決めます。

高ぶらず、偉ぶらず、自分の力を自覚して謙虚に人に接する、そんな「人」のあり方、姿が、求められているのです。

だ。あっちだろうか、こっちだろうか、と迷いながら、ひとり一人の山を登っていく。ときには人に道を聞いたり、友だちになったりすることはあっても、最後は自分の頂上に立つために登っていく。切ないけれど、寂しいけれど、それ故に尊いことのように思う。

◆ 冬のお泊まり保育 ◆



雪まみれになってあそびました。▲

12月22日・23日に神田寺幼稚園の冬のお泊まり保育が新潟県の越後湯沢で行なわれました。暖冬で、雪の少ないはずのスキー場に、当日になって大量の降雪があり、子どもたちは新雪に埋もれながら、雪あそびやソリあそびを楽しみました。

民宿では、みんなでコタツに入ったり大浴場であそんだりして、これも楽しい思い出になりました。

◆ 圓諦師 50回忌法要 ◆



昨年の11月16日、神田寺会堂で、神田寺先々代住職・主管の友松圓諦師の50回忌法要が行なわれました。昭和48年、78歳で遷化された圓諦師は、法句經の講義や多くの著作で知られ、仏教学者としても活躍されました。当日、圓諦師から直接教えを受けた弟子の方々や、檀信徒の皆さん約30名が参加され、神田寺の勤行式による法要が行なわれ、幼稚園の先生方による仏教聖歌も歌われました。法要後、圓諦師の法話録音が流され、なつかしい声が会堂に響きました。その後、友松浩志主管から御礼と今後の神田寺のあり方についてのお話しかあり、夕刻解散となりました。



<真理ニュース>

◆ 彼岸会

春の彼岸会は、昨秋のお彼岸と同じかたちで実施します。

① 法要参加

3月20日(水) 午前10時・午後1時に、神田寺会堂で法要を行ないます。

・法要に参加される方は、同封の申込みハガキでお知らせ下さい。

・神田寺で法要と法話があります。お土産のお寿司の配布があります。

・両墓地まで、大型バスでお送りします。

・当日は両墓地で、読経も随時行ないます。

② 塔婆供養

同封のハガキ(春彼岸会塔婆供養申込書)で、事前に受け付けます。

・先祖供養塔婆は、1本: 3000円です。

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。(個別供養塔婆は1本: 4000円です。)

・お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。(手数料なし)

③墓地管理費

- ・同封の振替用紙でご送金頂くか、墓地でお支払い下さい。

◆花まつり

お釈迦様の生誕をお祝いする「花まつり」は、本年も白象パレードなどは中止となります。

8日(月)に、玄関に花御堂をお飾りします。自由に灌仏(お釈迦様の像に甘茶をかけること)が出来ます。

◆真理舎の会 (法句経による仏教講話)

今年の予定は以下の通りです。

- ・4月12日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・降誕会)
- ・6月14日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
- ・10月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
- ・12月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・成道会)

※「仏教動行式」による読経と、友松浩志主管の仏教講話が行なわれます。

◆能登地震で被災された方々に、心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。寺院や保育施設にも大きな被害が出ているようです。復興を祈念申し上げます。



ただ 一向(ひたむき)に そしらるる
ただ 一向に 讚(ほ)めらるる
かかるもの 過ぎゆきし日にはあらざりき
今もまたあらざるなり
やがて 来ん日にもあることなからん

(法句經 228)

◇ 新・法句經講義 72 ◇

<※ 「新・法句經講義」は、巻頭ページ掲載の法句經について解説しています。>

このところ、どこに行っても外国人の姿が多く見られるようになりました。観光地では、外国人があまりに多くて、收拾がつかなくなっているようです。

なぜ、こんなことになっているのか。コロナ禍のあと、世界中の人が解放感を感じて、円安の影響で集まっているのが実情のようです。それ以外にも、治安がいいとか、日本食が美味しいとか、町がきれい、なかにはトイレ(洗浄機能)が気に入ったまで、さまざまな意見が語られています。

確かに日本は安全で治安もいい国ですが、これまではそれほど自画自賛できる国とは思いませんでした。第 2 次世界大戦のあと、アメリカに進駐され、遅れた民主国家として「再建」され、欧米諸国を目標に必死に産業や街路を整備してきました。

敗戦国家、遅れた国が、鉄鋼や自動車を機軸に GDP 世

界第 2 位に発展して、今の日本になったのです。「そしられて」きた国が、「ほめられる」国になったのは素晴らしいことですが、それがいつまでも続くという保証はありません。

「ほめられても」おごらず、「そしられても」くじけない姿勢こそ、大切なことだと思います。

仏教豆知識 91

薬石

「薬石」(やくせき)とは、薬と石針、薬品と治療法のことです。「薬石効なく」というのは、「薬や治療の効果がなくて」という意味になります。

また「薬石」には、「夕食」の意味もあります。仏教の戒律では「午後」に食事をするを禁じていたため(非時食)、午後の食事(夕食)のことを「薬石」と言って、健康のため隠語にして許していたと言われます。

<主管所感>

考えて生る

友松浩志

区役所の男の人から電話があった。以前送った申請書が出ていないという。「どんな書類ですか」と聞くと、緑色の封筒に入ったものだという。「記憶にないです」と答えると申請期間は今日までだが、特別に取り扱ってくれるという。

「ありがとうございます」とお礼を言うと、いろいろ手続きの話が始まった。

その内、「口座はどこ銀行ですか」という話しになって、「少し調べます」と電話がいったん切れた。電話が切れてから、何か変だなと思うようになった。とりあえず区役所に電話してみた。電話に出た受付の女の人が、「それ、何かあやしいですね」と言う。「そうだよ」ということになって切ると、またさっきの電話があった。

「それで、どうすればいいですか」と言うと、相手の態度が変わった。「何かあったんですか、さっきと感じ違いますね」と言う。「だってこれ、詐欺の電話でしょ」と言うと、突然電話が切れた。

まったく、ギリギリだった。「信じて」しまうと、疑うまでに時間がかかる。今回は、はじめに「区役所」と切り出されて、それが頭に入ってしまい、なかなか修正できなかった。オレオレ詐欺でも、初めに「孫」なり「息子」が頭に入ってしまうと、妙な話してもどんどん信じてしまうようだ。パソコンやスマホにも「あやしげ」な広告が毎日のように送られてくる。大きな会社の名前が入っていると、何となく信じてしまう。これからは、以前のように、郵便で届いたものの方が信じられる、という人もいる。

人を「だます」のは、人として最低の行為である。それを「仕事」にしている人は、最低の人である。そのうえで、自分を守る方策も必要である。それは「考える」という習慣だと思う。感覚的に生きるのが今風と思われているが、やはり「考えて」生きることは大切なことだ。スマホばかりいじっていると、情報に引きずられる頭になってしまう。「考える」ゆえに「人」であることを忘れてはならない。

◆ 令和 5 年度・事業報告 ◆ 学校法人

真理学園

学校法人の運営において、その事業内容と評価(自己評価と関係者評価)について広く公表することが義務づけられています。ここでは、令和 5 年度の事業内容と評価についてお知らせ致します。

■ 事業内容 ■

<法人全体>

・コロナ感染も落ち着き、マスクやパーテーションのない保育が戻ってきました。行事も徐々に復活させ、明るい保育が展開されました。

・園バス内の置き去り事故により、園バスに「置き去り防止装置」の設置が義務化されました。両園とも、バス内に装置を設置するとともに、子ども達の点呼確認、乗降車確認の徹底をはかりました。

<神田寺幼稚園>

・行事が復活するなか、保護者の参加基準について様々な意見がありました。コロナなどの感染状況を見ながら、参加者に不満がない運営を考えてまいります。

・満 3 歳児の園児募集を行なったところ、10 名の応募がありました。徐々に 3 年保育から 4 年保育への流れが見えてきました。

<真理学園幼稚園>

・行事を復活させながら、新たな行事のあり方を検討しました。各行事が、子ども達や保育者の負担にならないよう、考えていきます。

・陸屋根(屋上)の防水工事を実施しました。

■ 事業評価 ■ 以下の意見がありました。

・園児減少にともない、クラス編成や保育活動の仕方に工夫が見られたが、子ども達の発達や体験活動などについて、一層の配慮を行なって欲しい。

・IT による園業務管理は、利便性の向上につながったが、一部使用手順に課題もあるので、さらなる検討をして欲しい。

・神田寺幼稚園周辺の環境について、引き続き区や各機関と協議しながら、安全面、防犯面で十分な配慮をして欲しい。

◆ 秋のお彼岸について ◆

今年も、秋のお彼岸が近づいてまいりました。お彼岸は、以前のように神田寺の会堂で法要を行ない、バスで墓地へ移動して頂くかたちで行なわせて頂きます。

・ 9 月 22 日(日) 午前 10 時 午後 1 時の 2 回 神田寺会堂で法要を行ないます。

(ご参加の有無、参加人数を事前に申込葉書でお知らせ下さい。)

・ 法要と法話 友松浩志 住職

・ 塔婆供養 同封の申込葉書で、事前に受けつけ致します。

*先祖供養塔婆は、1 本:3000 円です。

*戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。

(個別供養塔婆は 1 本:4000 円です。)

*お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。

*お塔婆は、神田寺で法要が終了後お受け取り下さい。

(法要に参加されない方のお塔婆は、寺で墓地にお建て致します。)

・お土産のお寿司は、神田寺で配布致します。(お一人 1 個)

・両墓地まで、大型バスでお送り致します。(帰りの駅までの送りはありません。)

(バスご利用人数を、事前に申込葉書でお知らせ下さい。)

・当日、両墓地でご希望の方に随時読経を行ないます。

◆ 明治仏教史料のデータ化 ◆

神田寺で保管されてきた「明治仏教史編纂所」の史料の一部が、丸善雄松堂株式会社によってデータ化され、刊行されることになりました。現在この史料は、慶応義塾大学附属研究所の斯道文庫に寄託保管されていますが、広く(海外にも)利用しやすい状況をつくるため、約2年間をかけてデータ化される予定です。この史料には、国立国会図書館にもない貴重史料も多く、近年注目されている明治期の仏教研究には欠かせない史料の宝庫と言われています。

<真理ニュース>

◆お泊り保育

今年も真理学園幼稚園では、7月19日と20日に「お泊り保育」を実施しました。1日目は「プラネタリウム見学」「きもだめし」「花火大会」を行ない、カレー作りもして、園内で就寝。2日目は猛暑のため園内で静かにプラネタリウムを作ったりして過ごしました。

神田寺幼稚園では、夏の「お楽しみ会」を7月18日に実施しました。

◆夏の保育

夏休み中の保育(朝の保育・延長保育を含む)は、例年と同じく希望者に実施しました。

◆墓地管理体制の変更 <平日のお参りは事前申込制に>

墓地の管理について、以下のような変更を行ないます。

①土・日・祭日については、これまで通り 午前9時から午後5時まで、随時お参りが出来ます。

②お彼岸の前後、お盆の期間、年末年始も、随時お参りが出来ます。

③平日のお墓参りは、2日前(前々日)までに、お電話でご予約をお願い致します。(受付電話 ; 03-3251-8683)

・長年にわたり常駐管理を行なってまいりましたが、平日のお参りが少なく人件費の高騰などもありこのような結果となりました。皆さまのご理解を頂ければ幸いです。

◆真理舎の会

10月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

12月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

(兼・成道会)

・主管による分かりやすい仏教講話があります。参加者が減少しています。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

◆西墓地近くにあった「駐車スペース」は、都合により閉鎖しました。大変ご迷惑をおかけ致しますが、コインパーキン

グ等をご利用下さいますようお願い申し上げます。

◆猛暑の夏が終わると、かけ足で歳末への歩みが始まります。世界情勢も、政治状況も、なかなか安定しませんが、一日一日の積み重ねが大切です。皆様くれぐれもお健やかに過ごして下さいませよう、お祈り致します。